

町を知ろう!

【祭り】



由来や意味が分かったら、
祭りがもっと面白く
なります。



お祭りは、大人も子どももわくわくする待ち遠しい特別の日です。二丈町には、お祭りがたくさんあります。参加したり、見るだけでも楽しいお祭りですが、その意味や由来が分かったら、さらに興味がわいてきます。

毎年5月の第2日曜日に福井白山宮で奉納されている福井神楽は、神様に捧げる祭りです。「伝染病をおさめてください」「雨が降りますように」などと願って神楽が行われていたという記録があります。このように、神楽は昔から人々の生活と深い関わりを持っていました。

大入に伝わる盆綱引きの行事は、仏が地獄に落ちた人々を救い出すために垂らした綱を、地獄の鬼たちと引き合う「盂蘭盆会」という教えからきています。罪人たちは、極楽へ行きたい一心から、仏が差し出す長い綱にすがりつく。地獄の鬼たちは、それを阻止しようと罪人たちを地獄へ引きずり込む。ここに、仏と鬼の綱引きが始まるのです。面白いのは、仏教にまつわる綱引きが白山神社の参道で行われることです。人々は、カヌーで大綱を練った後、いったんそれを引きずって神社に参拝します。御神酒を飲んで、ふたたび大

日本には、いろいろなところに神様がいます。山の神様、水の神様、田の神様…。これらは、人々が本来持っている自然に対する敬いの気持ちから生まれた神様です。



綱を参道に戻し、綱引きが始まります。仏の慈悲を伝える祭りが、村人の宮行事として行われているところに、神仏が混ざり合った信仰の一面がうかがえます。

7月の初め、深江海岸で行われる「深江の川祭り」は、水神様の祭りです。「八大龍王川之神」という神様に、海や川でおぼれたりすることなく、健康に成長できるようにと祈る安全祈願祭です。

祭りの前日、集まった子どもたちは竹を切りに行ったり、竹に掲げる幡を作ったりして砂浜に神殿を作ります。神事が終わると、神殿はすぐに壊され、竹は流されます。これが、深江の子どもたちの海開きとなります。

この祭りは、深江町内の各地区が主体となり、子どもだけが参加するところに特徴があります。かつては、海岸近くの子どもだけが参加していたようですが、戦後、学校教育や地域の子ども会活動が活発になるにつれ、参加者が増えていきました。現在では、地域全体の取組として継承されています。

祭りや儀礼、慣習には、その背景が必ずあります。中には、その由来が忘れられたまま、時代とともに変化しながら続けられている行事もあります。お祭りの由来や意味を考え、昔の人々の暮らしを思い描いてみませんか。



写真① 吉井下の六地藏。吉井浜の野島（満島）山上には「役の行者」などが祀られています。ここは、伊能忠敬の測量地図では「野嶋岬」と書かれています。写真中央にある笠がついた石柱の上部は六角になっており、6体の像が刻まれています。六道（天道・人道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道）の衆生を救う菩薩ですが、親しみやすく僧形の像になっています。

写真② 福井地区番所の庚申塔。庚申（かのえさる）の信仰は江戸時代に入って急激に広まり、17世紀末から18世紀にかけ最盛期を迎えます。明和4年（1767）に建てられたものです。

写真③ 深江西町の猿田彦大神。神道の主神・猿田彦は庚申信仰と結びついて広まっています。天明8年（1788）に作られたものです。

写真④ 滝の観音不動明王。十坊山へ向かう山道の途中に滝があり、そのそばにひっそりとたたずんでいます。大正12年（1923）に作られたもので、裏面に製作者や石工の名前が刻まれています。

